

深川西、芦別 1学級増

公立高配置計画 両市市長も評価

北海道教育委員会は3日、2025(27年度)の公立高配置計画を公表した。空知北学区(中・北空知15市町)では25年度、深川西が1学級増の3学級、芦別も1学級増の2学級になることが盛り込まれた。空知南学区(南空知9市町)は6月公表の計画案から変更点はなかった。また、25年度の公立特別支援学校の配置計画も公表され、美唄養護学校の定員が5人増の30人となった。

深川西と芦別は本年度の新入生が定員割れし、道教委によって学級数が1削減された経緯がある。6月公表の計画案で

は両校とも「募集学級数は計画決定時に公表」とされていたことから、7月の空知北学区地域別検討協議会で深川、芦別の両市は募集学級数を本年度と同様に維持することを求めている。

深川市の田中昌幸市長は「2学級では市内の高校に通いたいという子どもに希望に添えない恐れがあった。3学級が維持され一安心」、芦別市の荻原貢市長は「オール芦別で取り組んだ結果が実を結び大変喜ばしい」と安堵の表情を浮かべた。

ただ、両市の中卒者数は25、26年度は微増で推移するものの、27年度以

降は大きく減少することが見込まれるため、1学級増は暫定的な措置になることが予想される。芦別市の荻原市長は「芦別高と連携しながら、生徒や保護者から選ばれるような魅力ある学校づくりに地域一体で取り組んでいく」と話している。

一方、定員増となった

美唄養護学校の児玉倫政校長は「中学3年生を対象とした入学選考の事前相談件数などから、道教委へ間口の増加をお願いしていたので、要望が通り安心して話している」。

(右川英徳、穴戸透、久川凌生)